

## 原著序文

### Teaching Extensive Reading in Another Language

#### 言語教育における多読

この概説書で、著名な研究者 Paul Nation と Rob Waring は、外国語での多読についてのあらゆる側面をわかりやすく説明しています。動機づけ、読みの流暢さ、語彙習得などに関連する現時点での研究結果が盛り込まれた本書から、多読という分野のまさに最新の姿を知ることができるでしょう。

ケーススタディ、ストラテジー、教室での効果的な多読の実施方法や評価方法が明快でわかりやすい文体で説明されており、英語やほかの外国語の教師志望者のために有益な情報も紹介されています。

本書は、TESOL や応用言語学のプログラムで使用されるのに適した本で、第二言語のリーディング、リーディング指導、TESOL 方法論、外国語のリーディングやその指導法などの科目に使用できます。学生や教師志望者だけでなく、英語教育の専門家や英語教師にも興味をもってもらえる本でしょう。

**Paul Nation** : ウェリントン・ヴィクトリア大学 名誉教授 (応用言語学)

**Rob Waring** : ノートルダム清心女子大学 名誉教授

# 目次

原著序文	iii	Stephen Krashen の貢献	viii
日本語版によせて	viii	監訳者まえがき	ix

第 1 章 多読とは	1
筆者が行った多読プログラム	2
多読とは何か	4
なぜ段階別読み物は初級や中級の学習者に必要なのか	7
語学コースの 4 つの要素と多読	8
多読プログラムを始めるにあたって	12
第 2 章 段階別読み物とは	25
内容を理解しながら適切なレベルのものを読む	27
読み物の豊富さ	33
楽しみながら読む	34
段階別読み物に対する批判	35
段階別読み物は不自然な表現を含んでいるか	39
語彙制限は何をもたらずか	40
段階別読み物を超えて	42
学習者はいつ段階別読み物から平易化されていない文章に移行するか	45
段階別読み物を使わない多読	47
平易化されていない文章の順序づけ	49
分野限定リーディングで語彙の負荷をコントロールする	50
結論	51
第 3 章 多読プログラムの実例	53
SEG 英語多読コース (東京)	53
「本の洪水」プログラム (フィジー)	56
パク語学アカデミー (ソウル)	58
京都産業大学 (京都)	60
ノートルダム清心女子大学 (岡山)	64
カトマンドゥ渓谷の多読 (ネパール)	69

ベトナム国家大学ホーチミン市情報技術大学 (ホーチミン) .....	71
サナタ・ダルマ大学 (ジョグジャカルタ) .....	74
<b>第4章 多読プログラムの準備と運営</b> .....	77
どのように多読プログラムを準備すればいいか .....	77
どのように学習者に多読を紹介するか .....	82
どうすれば学習者は自分に合ったレベルの本がわかるか .....	83
どうやってやる気のない学習者に読ませるか .....	84
多読中に教師は何をすべきか .....	85
学習者が多読を行っているかをどうやって確認するか .....	86
どのように多読ライブラリーを運営すべきか .....	86
学校に本を買う予算がない場合、どのように多読プログラムを 始めればいいのか .....	88
学習者は多読にどのくらいの時間をかけるべきか .....	89
多読プログラムに速読コースを含めるべきか .....	89
学習者はどのくらい読むべきか .....	90
読んでいるとき学習者は未知語を辞書で調べなければならないか .....	93
学習者が多読プログラムで学習しているかどうかをどのように測るか .....	94
大学生は段階別読み物を読むべきか .....	95
<b>第5章 多読でどのように語彙が学ばれるか</b> .....	103
語彙の学習条件と多読 .....	103
多読による語彙学習の強化 .....	106
語彙を制限すること .....	108
<b>第6章 特に重要な多読研究</b> .....	117
「本の洪水」による学び (Elley & Mangubhai, 1981) .....	117
単語頻度と豊かな語彙の学び (Waring & Takaki, 2003) .....	122
多読と語彙知識の強化 (Pigada & Schmitt, 2006) .....	125
学習者はどれだけ多読をする必要があるのか (Nation, 2014) .....	127
流暢さと段階別読み物と多読 (Beglar et al., 2012) .....	130
読みの流暢さと多読と精読 (McLean & Rouault, 2017) .....	132
多読でどのくらい単語が学べるか (Pellicer-Sánchez & Schmitt, 2010) .....	134
生態学的妥当性と因子統制とのバランス (Suk, 2017) .....	135

<b>第7章 研究成果</b>	
読むための動機づけと励まし.....	139
読むことの楽しさ.....	140
成功体験という報酬.....	141
明らかな進歩から来る満足感.....	142
価値のあることをしているという実感.....	142
自分で決定しコントロールする力.....	143
多読を妨げる要因.....	143
学習者の読みを励ます.....	145
多読における動機づけのための一貫したアプローチ.....	148
<b>第8章 研究成果</b>	
多読は読みの流暢さや内容理解の向上につながるか.....	151
読みの流暢さの特質.....	151
多読による流暢さの向上.....	152
流暢さを測定する際の課題.....	155
読む速度の測定法.....	155
標準語数.....	156
多読と内容理解.....	158
どのように内容理解を測るか.....	158
多読が内容理解に与える影響.....	160
多読と習熟度.....	162
多読とライティング.....	163
<b>第9章 多読による語彙学習に関する研究</b> .....	165
多読は語彙学習につながるか.....	165
1つの文章での語彙学習.....	167
多読プログラムでの語彙学習.....	170
多読でどのくらいの語彙が学べるのか.....	172
文脈からの推測、辞書引き、意図的学習.....	176
<b>第10章 読みの流暢さの育成</b> .....	179
読みの流暢さ育成のための練習の一例.....	179

読む速度の性質と限界 .....	180
流暢さの育成の特質 .....	183
流暢さの育成のための練習の特質 .....	185
音読の速度を上げる .....	186
注意深く黙読する速度を上げる .....	189
黙読での速読をさらに速く .....	191
読む速度についてよくある質問 .....	193
<b>第 11 章 多読研究をどうデザインするか .....</b>	<b>199</b>
多読研究に対する批判 .....	201
これまで研究されてきた課題 .....	202
多読の定義の曖昧さ .....	204
多読をほかの方法と比較した研究の問題点 .....	205
「ライティング能力の伸び」研究 .....	209
「情意の伸び」研究 .....	210
「多くの文章を読むことによる伸び」研究 .....	211
考察 .....	223
<b>第 12 章 いい段階別読み物を作成するには .....</b>	<b>227</b>
なぜ段階別読み物か .....	227
段階別読み物のシリーズを作成するには .....	229
開発段階 .....	237
生産、制作、販売の段階 .....	249
<b>第 13 章 進むべき道 .....</b>	<b>251</b>
多読のメッセージを明確にする .....	251
なぜ多読は十分に受け入れられていないのか .....	254
多読の未来 .....	256
研究課題 .....	259

参考文献 267

索引 284

## Stephen Krashen の貢献

Stephen Krashen が多読の実践や研究の促進に多大な影響を与えたことを認識するのは重要なことです。コンプリヘンション・アプローチ (Comprehension approach, Gary & Gary, 1981; Nord, 1980; Winitz, 1981) が提唱された当初から、Krashen は理解可能なインプットによる学習を一貫して強く主張してきました (Krashen, 1985)。彼の説得力のある著作物と人を引きつける講演は、理解に基づくアプローチ (comprehension-based approaches)、中でも多読 (Krashen, 2004) を試してみようという勇気を多くの人に与えました。理解可能なインプットによる学習についての彼の主張は明確で確固たるものでした。そのため、研究者たちは Krashen の主張の検証に駆り立てられました。多くの場合、彼の主張は研究によって裏づけられてきました。研究者としての Krashen の最大の長所は、常に研究と実践を結びつけることです。彼は、他の研究者を支え励ましてくれる研究者ですが、何よりも教師と学習者に話しかける研究者で、彼の話は常に興味深く理解可能なインプットなのです。Krashen はこの本の内容すべてには賛同しないでしょうが、彼がこの本のインスピレーションになったのはまぎれもない事実です。

## 日本語版によせて

It is very pleasing and gratifying to have your book translated into another language. When this translation involves the first language of learners, teachers and researchers who have contributed so much to the knowledge and practice of extensive reading, it is even more gratifying. Moreover, when the translators are well known and well-informed scholars in the field of extensive reading, including close friends and colleagues, then the gratification is more than complete. It gives us great pleasure to see this volume appear, and we are pleased that it has been so carefully prepared.

(我々の著作が他の言語に翻訳された本書を手にするのは、この上ない喜びです。翻訳された言語が、多読の研究と実践に多大な貢献を与えてきた数多くの学習者、教師、研究者の第一言語であるので、喜びはひとしおです。そして、親しい友と同僚も加わった本書の翻訳者たちが、多読の分野に精通したよく知られた研究者たちであることは、その喜びをたとえようのないものしてくれます。我々は、非常に丁寧に執筆された本書の刊行を心から嬉しく思います。)

Paul Nation  
Rob Waring

## 監訳者まえがき

---

外国語の学習者は、さまざまな目標を持っています。多くの学習者は、生活の場や留学先や職場で困らないように外国語を使うことを目標としており、母語での読書と同じように外国語でも素晴らしい本に出会い、感動を得たいと思う人は少ないかもしれません。その原因の1つに、いわゆる精読での読解指導があるのではないのでしょうか。精読の授業で自分の習熟レベルを超えた難易度の外国語の文章を読むことは、難しい語彙と文法の解読作業のようで、文意を理解することさえできない場合も多く、学習者が外国語の本を読んで感動を得るなど到底無理だと諦めてしまっても無理からぬことです。

私は、そのような外国語の読解指導に活路を開いたのが多読だと考えます。私自身、英語多読をやってみて初めて解読作業から解放され、「英語の読書は私の趣味」と言えるようになりました。『Teaching extensive reading in another language』の筆者は、「適切なレベルのものを、内容を理解して、たくさん、1人で、声を出さずに読む」(p. 4-5 参照) ことが、多読の定義だと提案しています。さらに、「適切なレベル」とは、文章中の未知語が2%以下であるべきだと主張しています。つまり、母語の読書のように、容易に理解し楽しんで読めるものを、大量に、個々人で、黙読するのが多読ということです。このアプローチは、遅々として進まない解読作業を繰り返し、外国語の読書だけでなく外国語の学習そのものを諦めかけていた人に、とても新鮮に感じられる方法でしょう。実際、私が多読本を教室に持ち込んだ日、ある学生が、「先生、こんなに簡単な本を読んでもいいんですか」と目を丸くしていたのを今でも鮮明に覚えています。1学期間の多読プログラム終了後、学生たちは、「読んでいるときの静寂を楽しめた」、「大学を卒業したら多読でやり直してみる」、「今までのコースにも多読があったら、難しい読み物と文法翻訳からの突破口になったのと思う」とポジティブな感想を述べていました。

本書の翻訳者チームは、日本語教育の専門家6人の集まりです。私たちは、日本語の効果的な習得方法、アルファベット語に比べはるかに困難だと

言われている日本語の読解習得、学習者の動機づけなどを模索する中で、多読の重要性を強く認識するに至りました。それは、本書の最終章で引用されている筆者の1人 Paul Nation が2013年に断言したことに通じます。

「語学コースで、教師ができる最も重要な改善点は多読プログラムを追加することで、もしそれが実施された唯一の改善点であったとしても、非常に満足することになるでしょう。」(p. 264)

私は、この Paul Nation の主張を支える根拠、つまり“多読に関する理論と実証研究の結果”を本書で正確に理解することにより、多くの言語学習の支援者がより効果的な読解指導を実践できるよう切望します。

本書の執筆に際し、私たちは、正確を期するため数多くの引用論文の原典にあたり、必要に応じて原筆者に情報の正誤を問い合わせ、学術用語の選択に際しても細心の注意を払いました。本書になお不備、誤りがある場合はすべて私が責を負うものです。また、本書の脚注はすべて、翻訳者チームが、読者の理解を助けるために必要と判断し加筆した訳者注です。

最後になりましたが、複数回にわたり親身にご指導くださった筆者の Paul Nation 教授と Rob Waring 教授、また、豊富なご経験に基づく的確なご助言をくださったくろしお出版の市川麻里子氏に、この場を借りて心から感謝申し上げます。

本書から多くの言語学習の支援者と研究者が、実り豊かな多読プログラムと多読研究を行うためのヒントを得られますよう。

2023年10月 Mitsue Tabata-Sandom

# 第1章

## 多読とは

多読とは学習者が自分に適したレベルのおもしろい本をたくさん読むことです。多読は基本的に非常に単純な活動なので、このような専門書は必要ではないかもしれません。また、本書では多読について多くの章を立てて説明していますが、これを見ると、読者は多読が複雑な活動だと思ってしまっても考えられます。では、私たちが本書を書く理由は何でしょうか。1つの理由は、多読が一般的にまだ教師に受け入れられていないからです。そのような教師が本書の研究結果や実践例を読めば、多読を語学プログラムの中に入れようと思ってくれるかもしれません。もう1つの理由は、現在出版されている多読に関する本が、あまり研究結果に基づいて書かれたものではないからです。多読を扱った数多くの研究がありますが、これらの研究を検証し、研究と現場の多読活動の間にどのようなギャップがあるのか、そしてこれらの研究からどのようなことが学べるのかを見ていくことは有益なことだと言えます。

第1章では、以下の質問に答えながら多読について簡単に見ていきます。

- ・多読とは何か
- ・初級や中級の学習者が多読をするために、なぜ「段階別読み物 (graded readers)」が必要か
- ・多読プログラムの指針となる語学コースの原則は何か
- ・どのように多読プログラムを始めて、実践するか

第2章以降では、さまざまな状況下での多読プログラムの事例、多読が

## 第2章

# 段階別読み物とは

段階別読み物とは英語学習者のために作成された本のことです。一般の本と異なり、レベルごとに使用できる語彙が厳しくコントロールされており、文法の難しさ、文の複雑さ、イラストの使用、ストーリーの単純さなど、わかりやすさを左右するさまざまな要素に関しても配慮がなされています。段階別読み物は全体がいくつかのレベルに分けられていて、レベルが上がるにつれて難しい語彙が増えるだけでなく、前のレベルの上に体系的に積み上げられているので、語彙知識を強化し定着を図ることができます。

段階別読み物を最初に作ったのは Michael West だと言われています。彼ははじめて大量の読み物を創作し、試行錯誤の末に厳密にコントロールされた単語リストを作り上げました。West は、段階別読み物の最初のシリーズである「New Method Supplementary Readers」と、「New Method Readers」を Longmans, Green and Co. Ltd. から出版しました。「New Method Supplementary Readers」は7つのレベルからなり、語彙学習を強化し読む練習を行うためのもので、「New Method Readers」は段階別読み物ではなく、新しい語彙を体系的に紹介していく全7冊の読み物のシリーズでした。ウォーリック大学のサイト ([https://warwick.ac.uk/fac/soc/al/research/collections/elt\\_archive/halloffame/west/life/](https://warwick.ac.uk/fac/soc/al/research/collections/elt_archive/halloffame/west/life/)) に West の生涯に関する詳しい説明があります。

母語話者向けの原作とそれを基にした段階別読み物を比較するために、以下にジョセフ・コンラッドの『Lord Jim (ロード・ジム)』の原作の一部と、その小説を基に1,400の見出し語で「Oxford Bookworms Library」のレベル4として書かれた段階別読み物の一部を例として挙げます。見出し語とは、

## 第3章

# 多読プログラムの事例

この章では、多読プログラムの成功例を幅広く紹介することで、多読プログラムとはどのようなものかを明らかにし、多読プログラムの有益性を裏づける1つの科学的根拠を提示します。それは、すべての事例において、学習者が読むことを楽しみ、たくさん読むようになるという形で多読実践の効果が出ているということです。多読プログラムには、数千人の学習者が参加する大規模なものから、限られた地域の小規模なものまで多種多様あり、予算が潤沢なプログラムもあれば、協力者の援助に支えられて継続しているプログラムもあります。一方で、成功例にはいくつかの共通点があります。そこには必ず、多読を信じて、必要なら既存のプログラムを柔軟に変更しようとする熱心な教師たちが関わっていることです。また成功の鍵は、学習者がモチベーションを持続して読み進めるために、トレーニング、オリエンテーション、そして継続的なサポートを与えることだといえます。

この章で紹介する成功例には、現場の関係者への聞き取りを基に紹介しているプログラムと、私たちが知っている範囲で紹介しているプログラムがあります。そのため、章全体の書き方には一貫性がないかもしれませんが、それぞれのプログラムの個性と、それぞれのプログラムで困難をどう解決したかが読者の皆さんに明確に伝われば幸いです。

### SEG 英語多読コース（東京）

SEGは東京にある塾で、中学1年から高校3年（12歳から18歳）の、学

## 第4章

# 多読プログラムの準備と運営

### どのように多読プログラムを準備すればいいか

多読プログラムを始めるときに留意しなければならない一番重要な点は、以下の3つです。(1) 学習者にとって適切なレベルの読み物が豊富にあること、(2) 学習者にたくさん読める時間を与え、熱心に励ますこと、(3) 準備している多読プログラムに「意味重視のインプット」と「流暢さの育成」の2要素が備わっていることです。「意味重視のインプット」で、学習者は適切なレベルの文章、すなわち、今の知識を超えた単語が数語しか入っていない文章を読み、「流暢さの育成」では、学習者は速度を上げることに集中して非常に簡単な文章をできる限り速く読みます。

多読にメリットがあることは明らかですが、多読プログラムを実施するには多くの課題があります。最初の課題は資金面です。まず、多読プログラムを始めするには、比較的多くの本が必要です。100人の学習者がいる学校の場合、学習者が異なるレベルの読み物を読んでいる場合はことさら、学習者に十分な選択肢を与えられないので、学習者数と同数の100冊の蔵書では不十分でしょう。最低でも学習者数の数倍の冊数が必要で、さまざまなレベルやジャンルの読み物が用意されていなければなりません。だからと言って、少ない冊数の蔵書では多読プログラムを始められないというわけではありません。実際、30冊本があって20人の学習者各自が1冊ずつ借りる場合、各学習者は11冊の本から選択できます。多読用の蔵書がそろったら、次はそれを管理しなければなりません。通常多読は授業外で行うので、学習者は

## 第5章

# 多読でどのように語彙が学ばれるか

### 語彙の学習条件と多読

語彙の学習は多読が目指す目標の1つにすぎませんが、多読による語彙の学習は、ほかの言語要素の習得と同様、多読がもたらす状況（文脈の中で単語、ワードファミリー、語句に繰り返し出会うこと）を活用して行われます。多読ではその出会いの質が高いため、語彙の学びが促進されます。

語彙の学習は大きく2つの段階に分けられます。第1段階は、単語の形と意味を結びつける段階で、学習者はつづりや発音をその語の意味と結びつけます。この段階の学びは、読んでいるときに文脈から語の意味を推測したり、用語集や辞書を使ったり、教師や友人に聞いたりして起こります。これは、単語の学習を積み重ねていく中の最初の小さな1歩でしかありません。学習した単語を忘れる前に、別の文脈でその語に何度も出会えば、単語の学習は強化されていきます。

語彙学習の第2段階で、学習者は単語の2次的な意味に出会います。例えば、どのようなニュアンスで使われるのか、コロケーション<sup>1</sup>、コリゲーション<sup>2</sup>、文脈の中での使われ方、ほかの使われ方（話すときか書くときか、丁寧な語かくだけた語か、またはその中間か、一般語か学術語かなど）に触れていきます。この2次的な知識の多くは、意図的に学ぶことはできません。

<sup>1</sup> コロケーション：特定の単語と単語との関係。

<sup>2</sup> コリゲーション：特定の単語と文法機能との関係。

## 第6章

# 特に重要な多読研究

この章では特に重要な多読研究を取り上げ、多読の効果を示す有力な研究結果を批判的に検証し、これらの実証研究に外国語での多読を推進するための確固とした研究基盤があるかどうかを見ていきます。ここで取り上げた研究は、多読を推進するための根拠として用いるのに最も適したものと言えます。この選択に関しては、私たちの主観も入ってはいるものの、さまざまな要素を考慮したので、多くの研究者から賛同を得られると思います。選択の理由は個々の研究を紹介する際に説明します。第3章で紹介した効果的な多読プログラムの事例研究の中には、実証的データだけでなく経験や常識に基づいた根拠を重視したものもありましたが、この章では実証研究およびコーパスに基づいた研究を中心に取り上げました。

多読の推進のためにはしっかりとした研究結果による基盤が必要ですから、この章ではその基盤がしっかりとしているものから順に紹介していきます。つまり、最初に取り上げた研究が最も重要な研究ということです。それは Warwick Elley の監督の下で実施された一連の研究の中で最初に行われた研究で、この研究に続いて、さまざまな国でほぼ同一の手法で数々の研究が実施され、いずれも同じように驚くべき結果が出ています。

### 「本の洪水」による学び (Elley & Mangubhai, 1981)

Elley and Mangubhai (1981, 1983) は 1980 年にフィジーで、外国語として英語を学ぶ 4 年生と 5 年生の 9 歳から 11 歳までの小学生を対象に「本の洪

## 第7章

# 研究成果

### 読むための動機づけと励まし

外国語として英語を学ぶ学習者は、英語を読む熱意に大きな個人差があります (Takase, 2007)。熱意に欠けてしまうのは、英語で読むことは難しいと感じていることが原因かもしれません。また、第1言語と外国語の両方で、読むこと全般に興味がなくなることが原因となる場合もあります。Takase (2007) は、1つの言語で読もうとする熱意があっても、そのほかの言語でも同じように熱意があるわけではないことを明らかにしました。Brantmeier (2005) が示すように、読むことへの関心は複雑で、さまざまな要因から影響を受けます。多読は、学習者が大量の文章を読むことで効果が出るため、学習者の多読への向き合い方が重要となります。読むことを楽しみ、読むことに何らかの価値を見出さない限り、学習者は本をたくさん読まないでしょう。

多読では、たくさん読もうとする意欲がとても重要です。意欲を高める要因は多く (Mori, 2002; Yamashita, 2013)、研究者は、複雑な動機づけ<sup>1</sup>について説得力のある研究結果を示してきました。学習者が読む経験を積み、リーディングスキルが向上すると、動機づけのさまざまな要因 (または気が散る要因) の度合いは変化していきます (McLean & Poulshock, 2018; Mikami, 2017)。de Burgh-Hirabe and Feryok (2013)、Judge (2011)、Nishino (2007)、Ro (2013) が行ったケーススタディは、動機づけの変化や多読への向き合い方に影響を与える要因について貴重な示唆を与えてくれます。ケーススタディは、多読への向き合い方を調べるとき特に有効なようです。なぜなら、

---

<sup>1</sup> 動機づけ：英語では motivation。人が目標や目的などを目指して、行動を始め、それを持続させようとする際の心理的なプロセスや、心理的な機能の総称。

## 第8章

# 研究成果

### 多読は読みの流暢さや内容理解の向上につながるか

私たちは、読みの流暢さを、学習者が内容を十分に理解しながら読み物を読む速度と考えています。第6章で見たように、Beglar et al. (2012) は、読み物の内容理解と読みの流暢さの間に関係があることを明らかにしています。また、内容理解が伴ってこそ読みの流暢さは意味のあるものであり、内容理解にはある程度の速度で読むことが必要とも言えます。

#### 読みの流暢さの特質

流暢さにはいくつかの意味があり (Fillmore, 1979)、教師はその言葉を聞いたり使ったりしているうちに、どのような意味で使われているのかわからなくなることがあります (Tavakoli & Hunter, 2018)。この章での読みの流暢さとは読む速度のことを指し、一般的には1分で読める単語数、より正確には、1分で読める標準語数で測定されます。標準語数とは、文章に含まれる文字数(文字、句読点、単語と単語の間の空白を含む)を6で割って得られる数です。これまでの研究では、相当量の多読、特に適切なレベルの読み物を読む多読を行うと読む速度が向上するという明確な結果が示されてきました(第6章の Beglar et al., 2012 を参照)。Carver (1976) のデータは、英語母語話者の読む速さは、自分に適したレベルの読み物でも、それより簡単な読み物でも変わらないことを示しています。ただし、Carver の調査協力者の読む速度は、1分間に200語を超えていました。これよりもはるかに読む速度が遅い非英語母語話者にとって、非常に簡単な読み物を読むことは、多

## 第9章

# 多読による語彙学習に関する研究

多読による語彙学習は、多読を通して起こるさまざまな学習の1つとして捉えることが大切です。また、意図的な語彙学習を、多読による語彙学習と競合するものではなく、多読による語彙学習をサポートし、補うものだと考えることも重要です (Laufer, 2003, 2009)。Laufer (2003)、Cobb (2007)、Nation (2014) が示しているように、学習者がよほど大量の多読をこなさない限り、外国語の語彙学習の大半は意図的学習によって起こります。この本では、語彙力を含めた言語運用の習熟度を向上させるための有力な方法として、多読環境の整備をプログラム作成者や教師に勧めることを、重要な目的の1つとしています。

多読による語彙学習効果は長期間の多読コースでよりはっきりとあらわれるでしょう。これはかなりの量のインプットの繰り返し効果によるものです。本をたくさん読むほど、多くの異なる単語に出会い、同じ単語に繰り返し出会う機会も多くなります (Nation, 2014)。

### 多読は語彙学習につながるか

外国語での多読が語彙学習につながることは今までの研究から明らかです。研究には主に2種類あります。文章1つを読ませた研究 (Brown et al., 2008; Horst et al., 1998; Pellicer-Sánchez & Schmitt, 2010; Waring & Takaki, 2003; Zahar et al., 2001) と多読プログラムでの学習を扱った研究 (Al-Homoud & Schmitt, 2009; Horst, 2005; Pigada & Schmitt, 2006; Suk, 2017; Uden et al.,

# 第 10 章

## 読みの流暢さの育成

この章では読んでいるときの眼球運動、つまり目の動きについて説明します。この目の動きは読む速度に関係しています。目の動きの性質上、通常の読む速度には限界があり、この限界を超えた速度で読む場合、ほぼすべての語を注視する通常の読みとは異なったプロセスになってきます。これらの点を踏まえた上で、以下では、読みの流暢さを育成するためのさまざまな活動を紹介し、流暢さの育成をどのように多読プログラムの一部に組み入れればよいかを提案します。

### 読みの流暢さ育成のための練習の一例

「よーい、始め！」

この合図とともに、教室にいる 18 人の学習者は紙面に目を落とし熱心に読み始めます。一方、教師は、学習者が開始からどれだけ時間が経過したかわかるように、ホワイトボードに書いておいた「分」と「秒」を指さして、示していきます。

## 第 11 章

# 多読研究をどうデザインするか

過去 40 年以上にわたって多読の実証研究が多数行われてきました。国際多読教育学会の多読研究に関する参考文献リスト (<http://erfoundation.org/wordpress/bibliography/>) には 600 本を超える論文の要旨が載っていますが、その多くは文字どおり多読に関する研究報告です。例えば、学習者が多読で学びを得ることができるかどうかを問う研究（多くが多読による付随的学習についての実証研究）や、多読を「通常の」指導法や訳読法など異なる指導法と比較した研究、さらに、多読が言語学習のほかの側面（書くことや自信、動機づけなど）に及ぼす効果を調べた研究などがあります。

多読の研究は、平易化された第 2 言語の文章を大量に読むことで、さまざまな言語能力が向上することを証明するために行われてきました。例えば、Brown et al. (2008)、Elley (1991)、Hafiz and Tudor (1990)、Lituana et al. (2001)、Waring and Takaki (2003) 等は、多読の結果、言語能力全般が向上したと報告していますし、ライティング能力 (Elley & Mangubhai, 1981; Hafiz & Tudor, 1990; Robb & Susser, 1989; Tsang, 1996) やつづり (Krashen, 1989; Polak & Krashen, 1988) も多読の結果向上すると言われています。また、多読は読む意欲を高め、第 2 言語で読むことに対する肯定的な態度を育むという報告も複数あります (Burrows, 2013; Constantino, 1994; Hayashi, 1999; Lipp, 2017; Liu, 2016; Yamashita, 2004)。大量の文章を読んだ後に会話能力が伸びたことを(経験談として)報告している研究 (Cho & Krashen, 1994; Lado, 2009) や、多読による語彙力の伸びを明らかにした研究も多数あります (Chun et al., 2012; Day et al., 1991; Dupuy & Krashen, 1993; Grabe

## 第 12 章

# いい段階別読み物を作成するには

### なぜ段階別読み物か

段階別読み物は、複数の読み物からなる 1 つのシリーズとして出版されます。このシリーズは難易度によっていくつかのレベルに分かれていて、それぞれのレベルに数冊から数十冊の本があります。読み手の目標は、同じレベルの本をたくさん読み、そのレベルの本を楽に、そして十分理解して読めるようになることです。それができるようになったら、次のレベルの本に進み、そのレベルの本を難しく感じなくなるまで読んでいきます。このようにして、下のレベルの学習の上に積み上げられる体系的なシステムの中でレベルを上げていきます。読者の中には、「学習者が読める英語の本やウェブページなどは既に何百万とあるのに、なぜ段階別読み物を作成する必要があるのか」と思う人もいるでしょう。書店には、文字のない幼児向けの本から、子ども向けの絵本、500 ページの小説や学術資料まで、地球上のあらゆるテーマに関するあらゆる年齢層に向けた英語の本があふれています。外国語を学ぶ目的の 1 つは、母語話者向けの読み物と触れ合うことなのに、なぜその読み物を使わないのでしょうか。明らかなことは、母語話者向けの読み物は往々にして外国語学習者には不向きであるということです。ではなぜ私たちが段階別読み物を作成し、学習者にそれを読ませるのか、その理由についてこれから見ていきましょう。

どの書店でも、英語母語話者の子ども向けに書かれた多くの読み物のシリーズが、英語学習者に適した教材として販売されています。通常英語母語

# 第 13 章

## 進むべき道

本書では、多読の理論、実践、研究など、さまざまな角度から多読を見てきましたが、この最終章では、多読が今後どのように発展していくか予測し、多読研究に携わる人々のために研究課題を挙げようと思います。

### 多読のメッセージを明確にする

多読は非常に単純であると同時に非常に複雑でもあります。教師はただ適切なレベルの本を用意し、学習者がそれを読んでお互いの経験を共有する時間を確保すればいいのですが、それを実現するために、教師は目の前にいる学習者に合うようにいろいろな要素のバランスを取る必要があります。多読クラスで何をするか、学習者はどのくらい読むべきか、評価をするのか、するとすればどう評価するのか、どのくらいの期間実施するのかなど、多くのことを決めなければいけません。このようにさまざまな要素が関わってくるので、多くの教師は、多読とは何か、どうすれば効果的にできるのか、いまだに確信が持てないでいます。

1998年にRichard DayとJulian Bamfordによる『Extensive Reading in the Second Language Classroom』が出版されましたが、それは多読の発展の分岐点となる瞬間でした。この本は多くの人に多読の世界を理論的に紹介しただけでなく、教師に多読を実践する方法をわかりやすく示してくれました。この本の中で最も有名な部分は多読を成功させるための10か条でしょう。Day and Bamfordは、これを2002年の論文で、多読を実践するための